

<p>テーマ 建築物の動線計画について</p>		<p>ポイント ① 要求室の把握と活用方法 ② ゾーニングの基礎知識 ③ 動線計画：人・モノの動き</p>	
<p>目的 人やモノの動きから快適な住居空間を提案する。</p>	<p>仮説 動線の種類を分けることで、まとまりのあるプランニングができあがる。</p>		
<p>結論</p>			
<p>内容等</p>	<p>気づいた点、疑問点、問題点、課題等</p>	<p>まとめ、考察、行動目標、改善点、研究課題等</p>	
<p>1. 目的</p>			
<p>快適な住空間を提案するため。</p>			
<p>2. 基礎知識</p>			
<p>建築において施主の希望から必要な室を計画し、配置することが快適な住空間となる ・所要室とは：人が生活をする上で必要になってくる室のこと 例：食事室 (Dining) , リビング (Living) , キッチン (Kitchen)</p>	<p>・必要になる室とは</p>	<p>・今の家族構成だけでなく未来を見通した所要室が必要になってくる。</p>	
<p>家族構成について ・各家庭において状況は様々である。 ・そのために今だけではなく、未来の予測をしながら計画に練り込む。</p>	<p>・家族構成から見えた点として、個々で考えると活動時間帯の違いが生まれる。</p>	<p>・家族での活動時間 ・個人個人の活動時間</p>	
<p>ゾーニングについて ・空間をテーマや用途に分けて考えること。 ※パブリックゾーン, プライベートゾーン, サービスゾーンに分けることができる。</p>			
<p>・ブロックプランニング 必要となる室をブロックとして考え、またその室の機能や役割に配慮した結びつきが重要。</p>	<p>・室の機能や役割を考えていくと、住人・モノ・その他 (来客等) に分けれることに気がついた。</p>		
<p>・動線計画を考える。</p>			
		<p>・ゾーニング、ブロックプランニング、動線計画を経て快適な居住空間を提供できることがわかった。</p> <p>↑ ↓</p> <p>・既存プランの研究や、新聞広告、建築雑誌で知識得ることが重要である。</p>	
			<p>自己評価</p>